施策評価シート（ 令和3　年度の振り返り、総括）

作成日	令和4 年　04月　04日

施策 No.	29	施策名	生活環境の保全
主管課名	環境課	電話番号	0285-83-8127
関係課名	商工観光課、農政課、建設課、都市計画課、都市整備課、下水道課、生涯学習課		

1. 計画（Plan）

施策の対象	1）生活環境（大気、水質、騒音、悪臭等）　2）市民及び事業所

対象指標名	単位	令和2 年度実績	令和3 年度実績	令和4 年度実績	令和5 年度実績	令和6 年度実績	令和6 年度見込
河川調査	地点	13	13				
工場排水口調査	箇所	57	57				
工業団地総合排水口調査	箇所	5	5				

施策の目標	きれいなまちづくりを目指し、大気、水質、騒音、悪臭等の状況等の環境問題を把握し、良好な生活環境の保全に努めるようにします。
成果指標設定の考え方及び指標の把握方法（算定式など）	・河川の水質の状況が良いと感じている市民の割合は、市民意向調査結果とする。 ・臭気・騒音・振動の状況が良いと感じる市民の割合は、市民意向調査結果とする。 ・排ガス・ばい煙の状況が良いと感じる市民の割合は、市民意向調査結果とする。 ・河川生活環境項目環境基準適合率（生活環境基準）は、市内の5河川13地点において実施している調査結果について、年間の基準適合項目数を、調査項目総数（570項目）で除して算出する。 ・環境基準適合率（工場排水基準適合率）（有害物質及び生活環境項目）は、市内の工場等への事前通告なしに実施している調査結果について、年間の基準適合項目数を、調査項目総数（422項目）で除して算出する。 ・工業団地総合排水目標値適合率（有害物質及び生活環境項目）は、市内工業団地等の総合排水口において、毎月実施している調査結果について、年間の基準適合項目数を、調査項目総数（1,086項目）で除して算出する。

成果指標名		単位	平成30年度基準値	令和2 年度	令和3 年度	令和4 年度	令和5 年度	令和6 年度	令和6 年度目標値
河川の水質の状況が良いと感じている市民の割合	目標値	%	67.2	68.2	69.1	70.1	71.0	72.0	72.0
	実績値			67.7	69.3				
臭気・騒音・振動の状況が良いと感じる市民の割合	目標値	%	66.1	66.9	67.7	68.4	69.2	70.0	70.0
	実績値			68.5	66.9				
排ガス・ばい煙の状況が良いと感じる市民の割合	目標値	%	72.9	73.5	74.1	74.8	75.4	76.0	76.0
	実績値			72.7	74.6				
河川生活環境項目環境基準適合率	目標値	%	79.3	100	100	100	100	100	100
	実績値			80.2	80.2				
環境基準適合率（工場排水基準適合率）	目標値	%	99.1	100	100	100	100	100	100
	実績値			99.3	98.8				
工業団地総合排水目標値適合率	目標値	%	99.7	100	100	100	100	100	100
	実績値			99.7	100				
	目標値								
	実績値								

施策の成果向上に向けての住民と行政との役割分担	市民は、環境に対する関心を高め、良好な生活環境の保全に努めます。 行政は、環境の現状を認識してもらい、環境保全に関する施策の推進を図ります。環境保全に対する意識の高揚と環境学習の推進を図ります。

2. 実行（Do）→個別事務事業の実施による（事務事業マネジメントシート参照）

3. 検証・評価と今後の方向性（Check&Action）

（１）施策目標達成に対する要因分析と課題（①構成事業が与えた影響、②外的要因を踏まえて検証）

健康や生活環境に被害を及ぼす公害の原因は、かつての工場や事業所などの生産活動によるものから、生活排水や自動車交通などの都市・生活型へと移行している。大気環境や水環境、土壌などの各種の環境調査を実施することにより現状を把握し、生活排水対策の推進や事業所等の生産活動における環境基準・規制基準の遵守を図るとともに、市民一人一人が日常生活において環境への負荷を低減する取り組みが必要となっている。

成果指標「河川の水質の状況が良いと感じている市民の割合」、成果指標「排ガス・ばい煙の状況が良いと感じる市民の割合」については目標達成しており、成果指標「臭気・騒音・振動の状況が良いと感じる市民の割合」については目標値に達しなかった。目標を達成した項目を含め、全ての項目において『良くない』と感じている市民が約３割いる。河川の状況については、天候等により、透明度などの外観が悪くなることなどが影響しているものと考えられる。また、臭気・騒音・振動は、人によって感じ方が異なることから、苦情が寄せられているが、規制の対象とならない苦情への対応が難しい状況である。なお、近年の環境に対する関心の高まりから、環境に対し厳しい目を持ち判断している市民がいるものと考えられる。

成果指標「河川生活環境項目環境基準適合率」は、目標値に達しなかった。生物化学的酸素要求量、浮遊物質量、大腸菌群数などが、基準値を超過しており、中でも割合が高いものは大腸菌群数である。要因としては、大腸菌は、河川土壌に含まれる細菌によるものが多いと考えられている。また、本適合率は、採水時の河川の状況、天候等により違いが生じることがあり、要因を特定することは難しいが、要因の一つとして各家庭から排水される生活排水の水質が影響していることが考えられる。

成果指標「環境基準適合率」（工場排水基準適合率）は、目標値に達しなかった。42工場57排水口を調査し、1工場において生物化学的酸素要求量、1工場において生物化学的酸素要求量と浮遊物質量、1工場において大腸菌群数とジクロロメタンの規制基準の未達成が確認されたが、原因究明と改善計画等の提出を求め、結果、3工場ともに基準値を下回ったことが確認されている。

成果指標「工業団地総合排水目標値適合率」は、100%であり目標値に達している。

（２）今後の方向性（（１）の要因分析を踏まえ、施策目標達成に向けた方針を示す）

良好な生活環境を保全するためには、大気、河川等の水質、臭気、騒音などの状況を把握し、適切に対応する必要がある。

市民意向調査の結果3項目については、先入観などで判断されないよう、真岡市環境基本計画年次報告書『真岡市の環境』や環境測定の結果を市HPや広報誌を通じて公表し、真岡市の環境について正しく理解をしていただけるように努める。また、市内各企業と協力して小学生を対象とした環境学習会を開催し、各企業の環境への取り組みを知ってもらうとともに、環境保全に対する機運を醸成する。

生活排水の水質については、公共下水道への接続強化、また公共下水道未普及地域においては単独浄化槽から合併浄化槽への転換強化を行い、生活排水の水質を向上させることにより、河川水質の向上を図っていく。

工場等の排出水調査を、引き続き事前通告なしに実施し、状況を把握するとともに、不適合が確認された場合は、改善を指導し、基準値を下回ったことを確認する。また、２年連続で不適合があった場合は、状況を把握するため定期的に調査を実施するとともに、水質汚濁防止法に基づく特定施設については、県と連携した立ち入り調査を実施する。

工業団地の総合排水について、水質検査を毎月実施することにより状況把握を行う。また、異常があった場合、速やかに原因となる工場等の把握に努め、改善指導等を行い良好な水質の維持管理を行う。

4. 構成事業一覧（個別事務事業一覧）

NO	総重、総新 戦拡、戦新	事務事業名	担当	成果指標			評価結果
				成果指標名	単位	令和3 年度実績	今後の方向性
1		公害防止対策事業	環境課環境対策係	河川生活項目水環境基準適合率	%	84.6	現状維持
				工場排水基準値適合率	%	100.0	現状維持
				工業団地総合排水目標値適合率	%	98.8	現状維持
2		花いっぱい運動推進事業	生涯学習課生涯学習係	申込地域公民館数	館	64	現状維持